

こんなことに取り組んでいます！

サービスの精度を上げる

ケアマネジャーの視点を多様化できるよう、介護サービス計画の点検を通して振り返り、計画作成への支援を実施しています。



あるものを上手に使う

薬の飲み忘れが多い人や自己調整している人など、薬の管理が難しい人に、薬局での指導、主治医への報告や薬の変更、一包化の提案をしています。



以前は「在宅療養者がいつの間にか入院し、知らない間に退院していた」ということが多くありました。現在は、入院時と退院時にケアマネジャーと医療機関で情報を共有し、病院と自宅とをスムーズにつなぐことができます。

サービスの量を増やす

以前は、要支援認定者が理学療法士による機能訓練を受ける機会があまりありませんでしたが、現在は、市外のリハビリ専門職の協力により、短期集中の機能訓練教室を開催しています。



生活の基盤である地域を肥やす

一人暮らしや認知症の人に対する日中の見守り活動を行い、支え合い（コミュニティ力）を発揮しています。
[例]

- ▶「電気が消えたまま」「本人から困ったと相談がある」など、心配な人の見守りの実施
- ▶朝夕のあいさつなどの声掛け、近況の確認や副食の差し入れ、必要な物の買い足しなどの実施
- ▶ボランティアグループに加入し、集まる場の開設や自宅訪問支援の実施



華々しい活動の開始、新しい事業所の開設といったものではありませんが、国の制度改定をきっかけに**牧之原市の地域包括ケアシステムの底上げ**を目指しています。

「地域包括ケア」をもっと推進するために、皆さんと一緒に取り組むこと

「地域包括ケア」は、その地域に住んでいる人がみんなで作り上げる仕組みのことです。介護や医療などの専門的なことや、ボランティア活動だけが地域への貢献ではありません。「あいさつをする」「困っている人に声をかける」「気持ちに歩み寄り」一。あなたができること、あなたの好きなこと、あなたの思いはどのようなものですか？子どもとの同居世帯から高齢者世帯へ、そして高齢者の一人暮らし世帯へ。労働（元気）者から虚弱者へ、そして支援を必要とする立場へ。自身の環境や身体の変化により、必要な支援は変わります。それぞれの立場でできることをし、「地域包括ケアシステムの構築」に一緒に取り組んでいきましょう。

地域包括ケアが目指すもの

市では、要介護認定などを受けても、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、さまざまな取り組みをしています。介護・医療・保健のサービスや市民の皆さんからの支援（ボランティアなど）を上手に組み合わせながら、今までの取り組みの精度を上げ、サービス量を増やすなど、「地域包括ケアシステム」を充実させています。これまでの取り組みやこれからの課題などについて紹介します。

問い合わせ 長寿介護課 加藤明香 ☎0076

地域包括ケアシステムを充実させるために重点的に取り組んだこと

以 前	令和2年度	評価
要介護の認定者数が上がると推計した	高齢化率は上がっているが、要介護などの認定を受ける人の割合は増えていない	◎
ケアマネジャーが医療機関に対して苦手意識を持ち、必要な情報のやりとりが難しかった	担当ケアマネジャーによる医療機関への情報提供や毎年の意見交換会により、顔の見える関係づくりが進み、双方向のやりとりがスムーズになった	◎
認知症専門医のいる医療機関はあったが、関わりがなかった	認知症専門医への紹介件数が増え、認知症の相談会などに協力していただくことができています	◎
地域包括支援センターの認知度 24.8% (H29・市民アンケート)	地域包括支援センターの認知度 40.4% (R2・市民アンケート) ⇒相談に応じる機関が分かり、相談しやすくなった	◎
各地区において、サロンやシニアクラブ活動が活発に行われていた	支援者の高齢化、コロナ禍により従来からの地域活動（サロンやシニアクラブ）の集まりが減少している	△
「助け合っていると感じる」人の割合 69.9% (H29・市民アンケート)	「助け合っていると感じる」人の割合 62.7% (R2・市民アンケート) ⇒助け合いの意欲が高い人は、ボランティア活動を実施している。もっと多くの人に関心を持ってもらえるような取り組みが必要	△

課題

認知症の人を取り巻く本市のサポート体制（例）

